

# 研究主題

平成31年度

## 社会との関わりをもって自ら学びを深める生徒の育成

～ 思考の活性化を促す授業の工夫を通して ～

### 1 研究主題設定の理由

本校では、今年度より、目指す生徒の姿を「獲得した知識・技能を実社会や実生活、課題解決に生かすことができる生徒」「自ら課題を設定し、課題解決に向けて他者と協働しながら新たな考えを創造しようとする生徒」「『よく生きよ』を自ら問い、共に考え、地域のために貢献しようとする生徒」とした。

これまで「思考の活性化」をキーワードに進めてきた授業改善の積み重ねを生かし、「主体的・対話的で深い学び」の実現とカリキュラム・マネジメントの充実とで、全教育活動を通してこの資質・能力の育成に取り組むものとした。

#### ○「社会との関わりをもって」について

主に「獲得した知識・技能を実社会や実生活、課題解決に生かすことができる生徒」「『よく生きよ』を自ら問い、共に考え、地域のために貢献しようとする生徒」との関わりをもって捉えるべき部分である。一昨年度、本校を会場に行われた全国技術・家庭科研究大会の授業実践では、社会との関わりをもって学習する効果が実証された。社会との関わりを意識した授業をすることにより、生徒は地域や社会で起こっている問題や出来事に関心をもち、地域や社会をよくするために何をすべきかを考え、このような授業を積み重ねることにより、「未来の創り手」となる資質・能力を育むことができると考える。しかしながら、多くの教科において、生徒が実社会や実生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得しているかについては不十分であるとされている。

#### ○「自ら学びを深める」について

「自ら」とは、「主体的な学び」の態度である。課題意識をもって物事を見つめ、そこから探究すべき課題を見いだす。そして、既習事項を生かして解決できないか、その方法を探り、見通しをもって学習を進める生徒の姿を目指す。「学びを深める」とは、既得の知識や技能を活用したり関連付けたりして深い理解につなげることや他者との考えの交流を通して自分の考えを見直したり再構築したりすることを表す。つまり、主に「自ら課題を設定し、課題解決に向けて他者と協働しながら新たな考えを創造しようとする生徒」との関わりをもって捉えるべき部分である。

これまで、各教科等で、授業の中にグループ学習やペア学習で学び合う場を位置付け、能動的な問題解決の過程を重視し、思考の深まりを図ってきた。更に、思考の過程が見えるノート作りの指導や学習シートの工夫、そして振り返りの時間の確保によって、生徒が思考の深まりを実感できるようにしてきた。しかし、教科等によって学び合いの捉えが違い、思考の活性化という意味では必ずしも効果的ではない学び合いも見られた。

### 2 研究仮説

生徒の関心・意欲を高める課題設定を工夫し、生徒がその解決に向けて見通しをもって取り組める単元を構想すること、そして、効果的な学び合いを意識して取り入れていくことで、生徒の主体的な学びを促し、思考力・判断力・表現力を高めていくことができるであろう。また、思考が活性化する多様な授業形態や言語活動、振り返りを工夫することで、生徒の学びの実感や達成感を高め、次の主体的な学び、実生活や社会に広がる学びにつなげることができるであろう。

### 3 目指す生徒の姿

- ・獲得した知識・技能を実社会や実生活，課題解決に生かすことができる生徒
- ・自ら課題を設定し，課題解決に向けて他者と協働しながら新たな考えを創造しようとする生徒
- ・「よく生きよ」を自ら問い，共に考え，地域のために貢献しようとする生徒

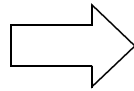
### 4 研究の内容

- (1) 研究主題に基づいた教科・教科外の研究計画の立案と個人のPDCACA
- (2) 研究主題の具現化を図る授業改善

- ①「思考の活性化」のイメージ及び授業改善の視点を共有する。
  - ②「思考の活性化」を図る授業改善の視点を踏まえて授業に取り組む。
- <「思考の活性化」のイメージ>

受動から → 能動へ

- ・板書を写している。
- ・先生の話聞いて記憶している。
- ・友達の説明や意見を聞いている。
- ・質問や疑問がない。
- ・与えられた課題を解くことで終わっている。
- ・何が分かって何ができるようになったか、まとめたり説明したりするのが難しい。



- ・真剣に課題に向き合い解決に向けて見通しをもって考えている。
- ・積極的に自分の考えを伝えている。
- ・他の考えを比較検討して聞いている。
- ・議論（積極的な意見交流）が行われている。
- ・新たな問いが生まれている。
- ・できたこと、分かったことが明確で達成感がある。
- ・授業後も関心や意欲が続いている。

#### <「思考の活性化」を図る授業改善の視点>

- 問題を見だし解決の見通しをもつ活動
  - ・課題発見や解決のためのアイデアを引き出す工夫
- 他者と協働して考えを形成し，自己の考えを広げ深める活動
  - ・授業や単元の中での学び合いの効果的設定とその明確化
  - ・比較・検討に生きる，考えの視覚化
  - ・少人数の話合いと学級全体での話合いを往還させる授業展開や教師の働き掛けの工夫
- 知識や技能を活用したり相互に関連付けたりして深い理解につなげる活動
  - ・既得の知識や技能の活用が図られるような授業展開・単元構成の工夫
  - ・他者との交流を通して，自分の考えを見直したり再構築したりする場面の設定・工夫
- 自身の学びを振り返り変容を自覚する活動
  - ・生徒が自分の学び方や考え方の変容に気付くことができるようにするための手立ての工夫
  - ・学びを既習事項とつなげたり，実生活・実社会に生かしたりしようとさせる手立ての工夫

#### (3) 成果と課題の把握

- ①生徒の実態と変容を把握するアンケート等の実施
- ②授業改善の成果を検討する校内授業研究会等の実施
- ③定期テスト及び学習状況調査等による学習内容の定着の把握
- ④教師一人一人のPDCACA